

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2023年7月6日時点)

▶ **ウクライナ軍が南部及び東部の露軍に対する攻撃を強化する一方、露軍は、各正面において防御戦闘を実施するとともに、各地の軍事・非軍事施設に対する攻撃を継続している模様。**

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約6万~7万人 (CSIS2月27日)

死者約20万8,000人 (「ウ」軍東部作戦管区報道官6月3日)

死傷者約18万人 (クリストファーセン・ノルウェー軍参謀総長1月22日)

「ウ」軍: 死者最大約1万3千人 (ポドリャク「ウ」大統領府長官顧問22年12月1日)

死傷者推定10万人以上 (クリストファーセン「ノ」軍参謀総長1月22日)

「ウ」市民: 死者8490人以上、負傷者1万4,244人以上 (OHCHR4月10日)

- 3日昼、スーミ市中心部で5階建てのアパートが露軍のミサイル攻撃を受け、少なくとも住民3人が死亡、21人が負傷 (7月3日)
- 6日未明、リヴィウ市内の集合住宅が露軍のミサイル攻撃を受け、少なくとも4人が死亡、子ども1人を含む32人が負傷。リヴィウ市長は、露軍の侵略開始以来、リヴィウの民間インフラに対する最大の攻撃だったと指摘 (7月6日)

- バウアーNATO軍事委員長は、「ウ」に〔西側製の〕戦闘機が供与される時期は、「ウ」軍反転攻勢の後になるだろう」と発言するとともに、「ウ」側がこれら戦闘機を要望するのは重要なことで理解できるが、この**戦闘機供与の話**を〔現在行われている〕反転攻勢と結びつけるべきではない旨指摘 (7月3日)

- 露大統領府報道官は、「ウ」での特別軍事作戦副司令官を務める**スロヴィキン上級大将が「プリゴジンの文脈で」逮捕された**と指摘について、「憶測」にすぎないとして否定。一方、露独立系メディアは、**スロヴィキン上級大将はFSB(露連邦保安庁)の事情聴取を受けたものの、すでに釈放**されていると報道 (6月29日)
- 露国防省は、**モスクワ市及びモスクワ州を標的とした無人機×5機によるテロ攻撃を阻止した**旨発表。飛来した無人機5機のうち4機は防空システムによって、残りの1機は電子戦により無力化されたと発表 (7月4日)

- 「ウ」国防次官は、「ウ」軍が**バフムト正面、ドネツク州西部・ザポリジヤ州境界正面及びザポリジヤ州西部で反転攻勢**を戦いを継続しており、過去数週間で「ウ」軍が南部で**28.4km奪還した**旨発表 (7月3日)
- 「ウ」軍東部作戦区報道官は、「露軍が約18万人以上の兵力を〔ウ」軍の〕**東部作戦区担当地域**〔ハルキウ州、ルハンスク州、ドネツク州、ザポリジヤ州、ポルタヴァ州、ドニプロ州〕に投入しており、「**リマン・クプヤンスク正面に12万人、バフムト正面に5万人規模のロシア兵**がいる」と指摘 (7月3日)
- 「ウ」軍参謀本部報道官は、「**バフムト正面**でわが軍は攻撃を継続し、市の北翼と南翼で敵に圧力をかけ続けている」とし、「**クリシチウカ地区で局所的成功**をおさめ、陣地を確保しつつある。敵は頑強に抵抗し、予備兵力を投入しているため、**わが軍でも甚大な損害**を被っている」と発言 (7月5日)

- 露国防省は、アントニウスキー橋近傍に所在する「ウ」軍部隊を**成功裏に撃退**したと発表。一方、複数の露軍事プロガーらは、同地の「ウ」軍部隊は**引き続き拠点**を維持していると指摘 (7月2日)

- 主要都市 (下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点 (接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- ☀ 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- ☀ ウクライナ軍が奪還した地域



国土院標準地図を加工

資料源: ウクライナ政府機関ウェブサイト、ロシア大統領府ウェブサイト、ISW等